

文化



佐藤 文香

二〇一六年は俳句総合誌で若い世代の出番が増えた一年だった。『俳句』あるふあ』で若手俳人によるリレー連載「俳句の未来へ」

時評 俳句

が始まり、『俳句』の「合評鼎談」にはベテランの高野ムツオをホストに、若手二人が交代で加わった。中でも今、若い作家たちからもっと注目されている鶴田智哉に、平成三年生まれの福田若之がインタビュートした「これからの俳句」(『俳句四季』十一月号)は魅力的だった。存在の意味を定義づける句ではない、それだけで生えているような句がいろいろある。鶴田の、意味のない言葉の家が出てきた。

さとう・あやか 俳人。1985年神戸市生まれ。松山東高校時代に第5回俳句甲子園個人最優秀句。第1句集『海藻標本』で宗左近俳句大賞受賞。「里」「鏡」「クブラス」所属。

カモメの日の読書

小津 夜景



撮影・小津夜景

おづ・やけい 俳人。釧路市生まれ。同志社大卒。パリ第7大学博士課程中退。2016年、句集『フラワーズ・カンフー』(ふらんす堂)刊行。現在ウェブマガジン「週刊俳句」でフランスの俳句事情を紹介する「みみず・ぶつくすBOOKS」を不定期連載中。

な柄。潮の花の甘い匂いにひきよせられては翼を大きく広げ、あるものは舞い、またあるものは稜線の頂きに止まったまま波もろとも崩れ、海間のそこかしこに散りつつ浮かぶ姿。つかのま風の隙間にたぐれ、まためくれあがる大きな声。トレンチコートと襟元を固くあわせ、風よけのサングラスをかけ、ポケットに文庫本を入れて、私たち夫婦は陽あたりのよい海をいを散歩する。「かわいい。カモメ」「本当に」「三橋敏雄に『かもめ来よ天金の書をひらくたび』という俳句があつてね」私は言う。「これ、本をひらい

たときのかたちが鳥に似ていることに意味を掛けているんだって。天金をほごこした重厚な本をひらくたびに現れる、純白のカモメ。すく胸が高鳴らない?」「そつえば職場で聞いたんだけど夫も言う。「ル・アールって」この世の果てにある安らぎの場所」という意味らしいよ」「へえ。アール(港)はアルブル(木)と音が近いせいで、放浪者が身をよせる終の住処っぽい捉え方になるのかな?」「かもね。俳語でも見よっか?」「うん」

さば、いわしなど手頃でカラフルな俳句がぎっしり百種類以上詰め込まれている。私たちはコワフを冠った女のエッチングが印刷された、ピーナツオイル漬けのいわしの俳語をひとつ買った。陽が高い。海岸では青い軽トラ屋台が地元民相手に軽食を売っている。私たちは屋台でパンとビールを買い、カモメの群落へ踏み入って砂浜に腰を下ろした。そしてまずビール、ついで俳語をあげ、ピーナツオイルを砂浜にこぼさぬよう注意しながらいわしをパンにはさま、サンドイッチをこしらえた。空と海とにちらばるカモメの点景。波の音は多彩な表情をみせつつも、おおむねのんびりとした音楽を奏でている。そこへカモメが、ときおりギーヨーと鳴く。何かがぼつくりと裂けてしまったような声で。サンドイッチを食べ終えると夫は「空が大きい!」と呟いてその場に寝転がった。私は図書館で借りた読みかけの文庫本をひらいた。大きくひらいたページのノドが、すつと刃を入られた傷のようにみえた。

一冊の、書物という世界の中心にはつきりと生まれるひとつの裂け目。もしかすると書物から現れるカモメとは、世界の内側に存在するこの生々しい傷を宣べ伝える使者なのかもしれない。そんなことを思いつつ、私は本の中へゆつくりと入っていった。放浪者のように。

いまだ目を開かざるもの文字と虹 夜景

年功序列 崩壊のきざし

世界を目指す、そこから俳句にしていく推敲の様子や、助詞をめぐる思考を垣間見ることができた。木目からすり抜けてきて手でありぬ 鶴田智哉『俳句年鑑』二〇一七年版では、その鶴田が二十代・十代の「二〇一六年の収穫」を担当。鶴田は昭和四十四年生まれで、俳句の世界ではまだ若手と呼ばれるものの、それより二十歳ほど下に、ぐんぐん面白い作家が出てきた。

かつてはどこか結社に所属するところこそが、句友を得、句座を得るための、ほとんど唯一の方法だった。その結社内の賞を受賞し、主宰に見出され、協会員に推挙されるなどしながら、徐々に総合誌に若手として認識されるしかなかった。しかし、ウェブを中心に若者のネットワークが発達し

た現在、若手にとって、結社に入ることには選択肢の一つにすぎない。同世代の多い同人誌を選んだり、志を同じくする仲間と作品集をつくりたりすることもできる。また、ウェブ上で地道に文章を書き、超結社の句会に参加し、作品は雑誌の賞に応募するなど、俳句を続ける方法にもいろいろある。

この動きに俳句総合誌の編集者が気付き始めたというところは、年功序列の俳壇は崩壊しつつあると言えらるだろう。どこで、どんな俳句を書いたとしても、全面的に人々が、今読まれるべき作家である。

ギャラリー

31日頃から 札幌 中村信喬の世界展

27日まで、北都館(西区琴似1の3) 山本彬雄×池田緑 建築と美術展 12日まで、法邑(東区本町1の1) 旭川 遇里夢正月展3 15